「平和の礎」名前を読み上げる会に参加して　　　　　　　　　　　　　西原中学校三年　喜納陽花（はるか）

　西原中学校では全校生徒で「平和の礎」に刻銘されている、西原町の方の名前を読み上げる会に参加しました。

　名前や亡くなった場所が分からない方もいて、改めて戦争の悲惨さ、残酷さを感じました。今回読み上げた名前の中には自分と歳の近い子、生まれてすぐに殺された３歳以下の子などもいてほんとうに可哀想だと思いました。中には家族が一家全滅した家庭もありました。名前のない人や年齢が分からない人も西原だけて沢山いました。戦争の悲惨さは今まで学んできた中で知っていたけれど、今日のこの会を通して、戦争は本当に残酷で二度と起こしてはいけないと思いました。また、亡くなった方の名前が「平和の礎」に刻まれ、今回私たちが読み上げたことで、その方たちが「生きていた証」になると思いました。

　今、私たちに出来ることは、戦争の悲しさや悲惨さを未来に伝え、命を築いていくことだと思います。戦争を生き延びてくれた人がいたからこそ、生きているこの命を大切にしていきたいです。

戦争には誰にもメリットはない　　　　　　　　　　　　　　　　西原中学校三年　具志堅　叶人（かなと）

　「平和の礎」名前を読み上げる活動で、これほど多くの人が戦争で亡くなったかと思うと、とても悲しくなりました。でも、僕たちが読み上げた名前は、ほんの一部で、本当は２４万人以上の方が亡くなっているそうです。

　僕たちは小学校のころから平和学習で色々なことを学んできましたが、２４万もの人が亡くなったと聞いて、この、２４万という数がどれほど大きいのかが少しは分かった気がします。しかも、　その中には生まれたばかりでまだ名前のない人や、僕たちと同じくらいの小中学生もたくさんいます。

　僕はアメリカ軍はとてもひどいと思います。ですが、「平和の礎」にはその敵国の名前も書かれています。これは、アメリカ軍の人にも家族がいたのに、家族を残して死んでしまったからだと思います。このように、戦争は誰にもメリットはなく、悲しみしか生まれません。だから、二度と戦争をしてはいけないと思います。

戦争のむごさを実感した「平和の礎」名前を読み上げる会に参加　　　西原中学校　我如古　唯人（ゆひと）

　「平和の礎」の名前を読み上げる会で、僕は戦争がどれだけ悲しいことなのか、戦争がどれだけ醜いことなのかを改めて実感しました。約２４万人もの人がこの沖縄戦で亡くなり、中には名前もわからない人、一回も誕生日を迎えていない子など、いろいろな人が平和の礎には刻まれています。現在では見慣れない名前の人などもたくさんいて、正直ちょっと笑ってしまうような名前もありました。でも、昔はその名前が普通なんだ、そして、その普通が戦争によって壊れて無くなってしまったんだと思うと、すごく悲しくなりました。人間はこれからも土地の確保のため、お金のため、今もこれからも戦争を続けるんだと思います。今のウクライナとロシアのように。でも、その戦争で無くなってしまったものは二度と戻らない。それでも人の記憶には一生残る。

平和の礎の名前を読み上げる会に参加して　　　　　　　　　西原中学校三年　石川　琥太郎（こたろう）

　西原中全校生徒で「平和の礎」に刻銘されている人の名前を読み上げようというプロジェクトに参加しました。私はこの集いに参加して、改めて戦争の残酷さ、悲惨さを実感することができました。

　最初、１人でこんなにたくさんの名前を読み上げると聞いて、とても驚きました。資料を見て沖縄県全体の名前を読むのかと、その多さを見て思いましたが、実際は西原町だけの亡くなった人の名前だと聞いて、さらに驚きました。

　いざ亡くなった人の名前を読むとなるとカタカナの名前の人や、○○の息子や○○の母など、名前があったはずなのに今ではその名前が読み上げられないとなると、とても複雑な思いになりました。また、私たちと同じ歳の人も戦争で亡くなってしまったと思うと、一日一日を大切にしながら生きていきたいと思いました。

　私たちは来週、校外平和学習で実際に「平和の礎」に行きます。もっとたくさん平和について考えていきたいと思います。来年もこのプロジェクトがあったら参加していきたいです。